

論理学形而上学序論講義

L. フォイエルバッハ

服部健二 訳

定価（本体 3600円＋税） 四六判上製 328頁

ISBN 978-4-911530-05-4 C3010 ¥3600E

ヘーゲルとフォイエルバッハをつなぐ遺稿
本邦初訳！

フォイエルバッハの遺稿『論理学形而上学序論』（1829/30年）は、エアランゲン大学で行われた講義の草稿である。彼はその講義において、ヘーゲルの精神の立場と汎神論的自然観との統合を目指した新しい試みを示している。本邦初訳。



フォイエルバッハの遺稿「論理学形而上学序論」（1829/30年）は、エアランゲン大学で行われた講義の草稿である。彼はその講義において、ヘーゲルの精神の立場と汎神論的自然観との統合を目指した新しい試みを示している。本邦初訳。

アトリエ花粉館

著者

ルートヴィッヒ・フォイエルバッハ

（1804年 7月 28日 - 1872年 9月 13日）ドイツの哲学者。青年ヘーゲル派の代表的な存在。ヘーゲルの哲学から出発し、のちに決別。唯物論と「神とは人間の内心の反映である」という投影説の立場から、特に当時のキリスト教に対して激しい批判を行った。フォイエルバッハは共産主義者ではなかったが、現世的な幸福を説くその思想は、カール・マルクスやフリードリヒ・エンゲルスらに多大な影響を与えた。

訳者

服部健二（はっとり けんじ）1946年生まれ。立命館大学名誉教授、名誉役員。主な著書に『唯一者と無』（2023年、現代思潮新社）『自然史の思想と実践的直観』（2020年、こぶし書房）、『アドルノ的唯物論との対話』（2016年、こぶし書房）、『西田哲学と左派の人たち』（2000年、同）など多数。訳書にテオドール・W・アドルノ『フッサール現象学における物的ノエマ的なものの超越』（共訳、2006年、こぶし書房）などがある。

【類書・関連書】

服部健二『唯一者と無』（現代思潮新社、2023年）

川瀬和也『ヘーゲル（再）入門』（集英社新書、2024年）

コジェーブ『ヘーゲル読解入門（上・下）』（白水社、2025年）

アトリエ花粉館 電話0848-44-2436
広島県尾道市向東町37-2

JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です。

返品は長期にお受けいたします（返品条件付注文扱い）。[了解者 JRC 宮尾]

ご注文は JRC へ FAX 03-3294-2177

書店名

注文冊数

冊

ルートヴィッヒ・フォイエルバッハ著
服部健二訳

論理学形而上学
序論講義

アトリエ花粉館

ISBN978-4-911530-05-4 C3010 ¥3600E

定価
（本体3600円＋税）

ご担当者名

注文書